

SAKAIKUBO 2

境窪遺跡 II

— 三間沢川河川改修工事に伴う緊急発掘調査報告書 —

2001.3

長野県山形村教育委員会

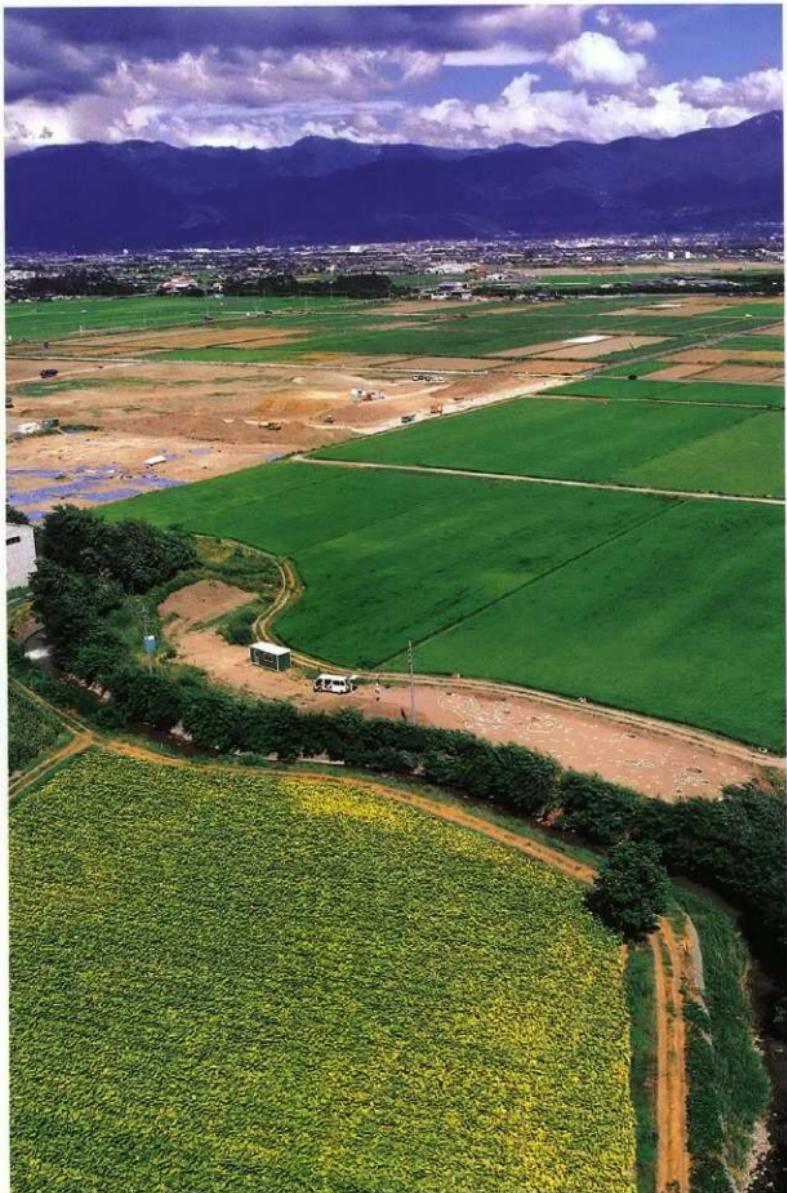
SAKAIKUBO 2

境窟遺跡 II

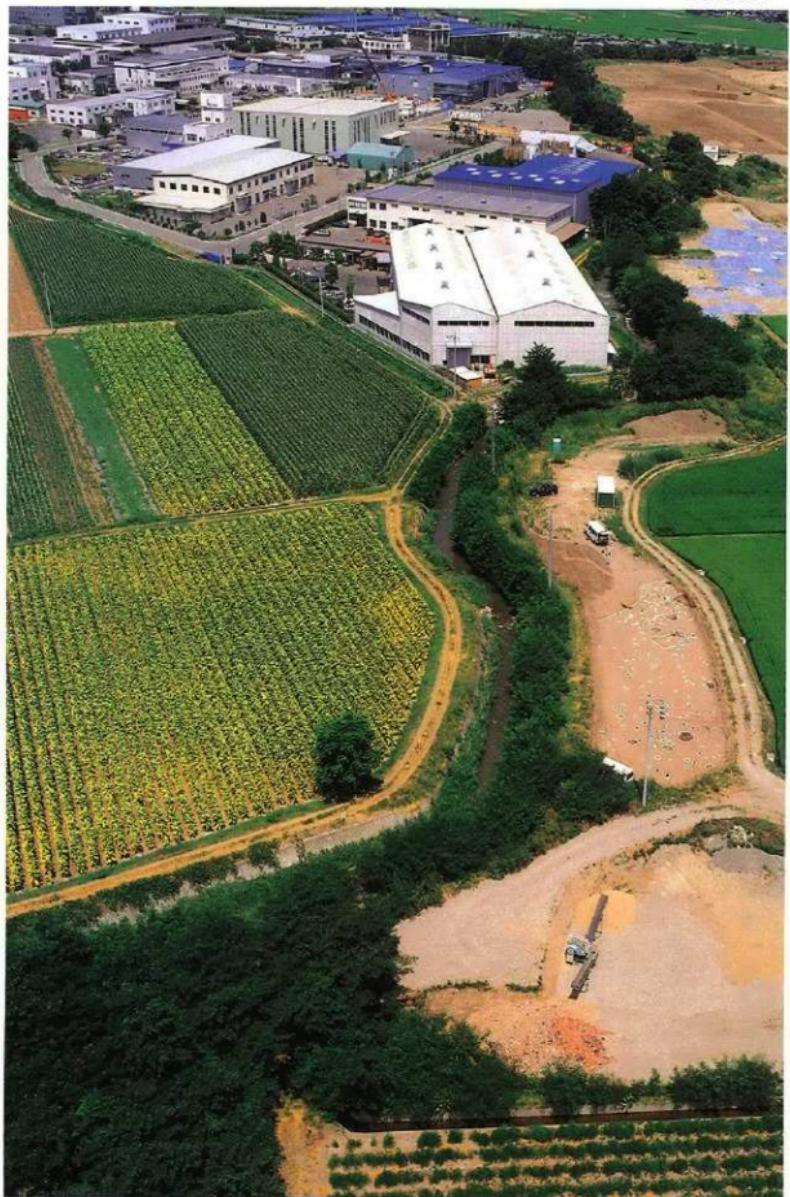
— 三間沢川河川改修工事に伴う緊急発掘調査報告書 —

2001.3

長野県山形村教育委員会



調査地から松本市街地を望む



調査地から三間沢川下流を望む

序 文

山形村・松本市の境にあたるこの一帯では、昔から製瓦用の粘土が盛んに採取されていましたが、その折に土器や石器の出土をみたことから遺跡の存在が知られていきました。この度遺跡を流れる三間沢川が河川改修されることになったため、松本建設事務所と山形村教育委員会にて遺跡の保護協議を重ねた結果、記録保存という結論に至り、緊急発掘調査を実施することとなりました。

発掘調査は平成11年7月から8月にかけて行われました。作業は梅雨時から盛夏にわたり、炎天下、酷暑という厳しい条件で行われましたが、参加者の皆様の御尽力により無事終了することができました。その結果、山形村では稀有である弥生時代の遺構・遺物、平安時代の竪穴式住居址を発見し、多大な成果をあげることが出来ました。

すなわち約2000年前、我々の祖先は大陸から普及した米作りに適した場所としてこの地を選び、生活の営みを開始したということが分かりました。大地に残されていた彼等の文化遺産は多種多様であり、得難い貴重な資料として活用できることになりました。悠久の歴史を刻んできたここ山形の地が、古代文化の盛衰や流れをどのように捉え関わりを持ってきたのかを考えるとき、意義深い成果であったと思うところです。

しかしながら新たな発見がある一方で、開発に先立って行われる緊急発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提にして実施されることも事実です。開発も我々の生活向上のために欠かせないものですが、それによって失われる歴史遺産という矛盾のなかで、如何に文化財保護をしていくべきなのか葛藤するところです。本書を通じて文化財保護とその施策、地域の歴史への理解が深まれば多少なりとも報われるとと思います。

最後になりましたが、発掘作業に従事していただいた皆様、調査の実施にあたり御協力をいただいた松本建設事務所奈良井川改良事務所、さらに数々の有益な御助言を賜った皆様に厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

山形村教育委員会

教育長 上條 勝

例　言

1. 本書は、平成11年7月1日～8月7日に実施された長野県東筑摩郡山形村野尻地区、松本市神林地区にまたがって存在する境窪遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 本調査は、平成12年度国補広域基幹河川改修事業((一)三間沢川　松本市　神林)に伴う緊急発掘調査であり、松本建設事務所から委託を受けた山形村教育委員会が、発掘調査を平成11年度に実施、本書の作成は平成12年度に行ったものである。
3. 遺跡の名称について、山形村では今まで「サカイクボ」とカタカナ表記していた。しかし松本市では「境窪」と漢字表記しており、第1次調査報告書も遺跡の名称は漢字表記である。よって今後は山形村でも漢字表記とし、松本市と統一することにした。
4. 本調査及び遺物整理作業にあたっては、以下の方々の御協力を得た。記して感謝申し上げます。

安藤　満　　井口くみ子　　池上　英夫　　大池　佳子　　上條と志江
高井　正宏　　帳山　昌一　　平沢　正樹　　古田　守一　　松本　剛
百瀬　隆喜　　山口　栄子　　横水　良夫

5. 本調査で用いた遺構の略称は次のとおりである。
土 → 土坑　　P → ピット　　住 → 穫穴式住居址
6. 本書の編集・執筆は、和田和哉が行った。
7. 本調査で用いた土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』である。
8. 航空写真撮影は、株式会社みすず総合コンサルタントに委託した。また、遺物実測図作成にあたっては、株式会社写真測図研究所に作業の一部を委託した。
9. 本調査及び本書作成にあたり、以下の方々より有益な御教示・御指導を賜った。記して感謝申し上げます。

竹原　学　　直井　雅尚　　野村　一寿　　寺島　俊郎　　田多井用章
佐々木　明　　久保田　剛

10. 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類(図面・写真等)は、山形村教育委員会が保管し、出土遺物は山形村ふるさと伝承館(〒390-1301　長野県東筑摩郡山形村3866　TEL 0263-98-3938)に、調査の記録類は山形村農業者トレーニングセンター(〒390-1301　長野県東筑摩郡山形村2040-1　TEL 0263-98-3155)に収蔵されている。
11. 本書作成にあたっては、以下の文献を参考にした。
長野県史刊行会 1988 「長野県史 考古資料編」全一巻(四)
松本市教育委員会 1998 「境窪遺跡 川西開田遺跡 I・II」
(財)長野県埋蔵文化財センター 1990 「中央自動車道長野線埋蔵文化財調査報告書 4
-松本市内その1- 総論編」
松本市 1993 「松本市史」 第2巻歴史編
山形村教育委員会 1999 「山形村埋蔵文化財調査年報(平成10年度 国庫補助事業)」

目 次

卷頭図版

序 文

例 言

目 次

I	調査の経緯	1
1	調査に至る経緯	1
2	文書記録	1
3	作業の経過	2
II	遺跡の立地と歴史的環境	3
III	調査の結果	7
1	調査の方法	7
2	検出遺構	7
(1)	豊穴式住居址	7
①	第13号住居址	7
②	第14号住居址	12
(2)	土坑	13
(3)	ピット	15
(4)	弥生土器集中出土地点	15
(5)	黒曜石剝片集中出土地点	15
3	出土遺物	20
(1)	弥生時代の遺物	20
①	土器	20
②	石器	22
③	土製品	22
(2)	平安時代の遺物	24
①	第13号住居址出土土器	24
②	第14号住居址出土土器	24
IV	まとめ	26

写真図版

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡	4
第2図 土層構成	5
第3図 発掘調査範囲	6
第4図 遺構全体図	8
第5図 遺構平面図(1)	9
第6図 遺構平面図(2)	10
第7図 遺構平面図(3)	11
第8図 第13号住居址	12
第9図 土師器・須恵器・土製品	12
第10図 第14号住居址	13
第11図 土坑他	14
第12図 弥生土器(1)	20
第13図 弥生土器(2)	21
第14図 石器	23

挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5
第2表 土坑一覧表	15
第3表 ピット一覧表	16
第4表 石器観察表	24
第5表 土器観察表	25

I 調査の経緯

1. 調査に至る経緯

境窪遺跡は山形村と松本市にまたがって存在する。一帯では製瓦用粘土が盛んに採掘された時期があり、その土器や石器が出土することを神沢昌二郎氏が発見し、遺跡として認知されるに至った。平成7年度には、松本市側において圃場整備事業に伴う緊急発掘調査が行われ、5,190m²という広大な面積が発掘調査された。結果弥生時代中期前半期の集落跡が姿を現している。

山形村に接する松本市のこの一帯は、松本臨空工業団地として多くの企業が進出している。この度工業団地が拡張することになり、それに伴ってこの中を流れる三間沢川が河川改修されることになった。流域には上流側から境窪遺跡、川西開田遺跡、三間沢川左岸遺跡が存在したため、当初松本市教育委員会と、事業主体者である松本建設事務所奈良井川改良事務所にて埋蔵文化財の保護協議を行っていた。しかし、河川改修予定地が一部山形村側まで及ぶということが、ある程度経過した後に判明したため、途中から山形村教育委員会も保護協議に加わった。というのもこの一帯は、平成9年に実施された圃場整備事業の際に、市村境の換地が行われていたため誤解が起きてしまったと思われる。

試掘調査は平成11年2月1日に松本市教育委員会と合同にて実施し、弥生土器片や土師器片、黒曜石剝片が出土したうえ、竪穴式住居址やピット、土坑を検出した。試掘調査の結果を踏まえ平成11年3月19日に、松本建設事務所、長野県教育委員会、松本市教育委員会、山形村教育委員会の4者にて河川改修に伴う埋蔵文化財の保護協議が行われた。事業実施に伴う埋蔵文化財の破壊は避けられないとの結論に至り、事前に記録作成のための発掘調査を実施することになった。また発掘調査区が市村境をまたがないことから、両教育委員会それぞれに各遺跡を発掘調査することになった。

平成11年6月24日に発掘調査業務委託契約を締結、7月1日より調査を開始した。

2. 文書記録

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| 平成11年4月9日 | 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の通知提出。(57条の3) |
| 平成11年6月16日 | 発掘調査範囲の申請書提出。 |
| 平成11年6月24日 | 発掘調査業務委託契約締結。 |
| 平成11年6月24日 | 発掘調査範囲の決定通知。 |
| 平成11年7月7日 | 埋蔵文化財発掘調査の報告提出。(98条の2) |
| 平成11年8月10日 | 発掘調査終了届提出。 |
| 平成11年8月10日 | 埋蔵物発見届、埋蔵文化財保管証提出。 |
| 平成11年8月24日 | 出土遺物の埋蔵物の文化財認定通知。 |
| 平成12年2月29日 | 発掘調査業務変更契約締結。 |
| 平成12年6月22日 | 発掘調査業務(整理作業)委託契約締結。 |
| 平成13年2月15日 | 発掘調査業務(整理作業)変更契約締結。 |

3. 作業の経過

【発掘調査】

7月1日（木） 晴 作業開始。発掘調査区に繁茂する雑草、地木の除去作業をする。

7月2日（金） 晴 雜草・地木の除去作業終行。

7月5日（月） 曇時々雨 重機にて表土除去開始。表土除去が終わった所から遺構検出を行う。粘土質の土で作業しづらく、遺構の輪郭も色の違いが不明瞭で分りにくい。弥生土器片が少しながら出土し始めている。夕方には大方表土除去作業が終わる。

7月8日（火） 晴 後番 遺構検出続行。

7月7日（水） 晴 住居址検出。3.5×4m程と小型で、試掘調査の際一部検出していたものである。隅にカマドらしき石が見えており、平安時代の住居址らしい。ピットは200位ありそうだが、土坑は少ない。梅雨明け前だが真夏の暑さ、ベースもはかどらない。

7月8日（木） 晴 遺構検出続行、現場は乾燥が激しく川から水をポンプアップして散水するが間に合わない。

7月9日（金） 晴 遺物包含層の掘り下げを行う。土器集中箇所、黒曜石剣片集中箇所が検出される。乾燥が激しく、粘土気味の土は締まってしまって硬い状況になっている。

7月12日（月） 曇時々雨 雨天中止。

7月13日（火） 雨 雨天中止。

7月14日（水） 曇後晴 遺物包含層を掘削する。遺物は土器片がビニール袋1つ分出土。また、石器はじめて2つ出土した。夕方4時過ぎに豪雨となり以後の作業中止。

7月15日（木） 曇時々晴 遺物包含層の掘削続行。遺物はビニール袋1つ分出土したが、石器3点と小型磨製石斧1点もある。また陶窯工業跡地内から真北を割り出し調査地まで引き込んだ。

7月16日（金） 晴後曇 遺物包含層を掘削し、その下にある遺構の検出を行う。遺物包含層からは弥生土器片がある程度かたまって出土したが、遺物包含層から何らかの遺構が掘り込まれていた様で、弥生土器はこの遺構に伴っていたと考えるのが良さそうである。黒褐色土中に黒褐色土が堆積した遺構であった様なので、その輪郭を捉えられなかつたのかもしれない。

7月19日（月） 曇時々雨 遺物包含層を掘削し、その下にある遺構の検出続行。豊穴式住居址は2基検出されたが、1基は3/4程が調査区域外まで延びている。梅雨明け前で非常に蒸し暑い。

7月21日（水） 曇時々雨 遺構検出終了、午後検出状況の全景写真を撮影。その後遺構掘削をはじめる。13住、14住を掘り下げる。

7月22日（木） 晴後曇 13住掘り下げ、床面まで20cm程と浅い。住居址北東隅に石が固まっている、平安時代のカマド付き住居址であるが、遺物は破片のみである。14住は境界の際まで笠張ることにした。遺構平面図の作成を開始。

7月23日（金） 晴 13住カマド半裁。石組カマドで煙道の天井部は破壊されているが、両壁部はある程度原形を保っている。土坑・ピットの掘り下げもはじめるが、遺物の出土は少ない。

7月26日（月） 晴 14住の掘り下げと13住土解観察用アゼをはずす。本日はとにかく暑い。夏到来と言った感じである。

7月27日（火） 晴 後番 14住掘り下げ及びピット掘削。学校の先生方が社会科研修の一環で現場を訪れる。

7月28日（水） 曇 14住掘り下げ、床面まで達したが顯著な遺物はなし。ほか、13住カマド、ピット掘削。

7月29日（木） 晴 土坑、ピット掘り下げ、遺物は少ない。

7月30日（金） 晴 土坑、ピット掘り下げ続行。

8月2日（月） 晴 土坑、ピット掘り下げ続行。現場の乾燥激しく、散水しても間に合わない。

8月3日（火） 晴 土坑、ピット掘り下げは調査区端まで及ぶ。

8月4日（水） 晴 遺構削削も9割位は終了。作図作業も急ピッチで進む。本日は快晴無風で、今調査中最高峰の暑さ。作業従事者もバテ気味。

8月5日（木） 晴 後番 遺構削削終了。作図作業もほぼ終る。夕方近くには全体写真撮影のための清掃を開始した。

8月6日（金） 曙 全体写真撮影のための清掃を引き続行い終了。発掘機材の収容も行う。

8月7日（土） 晴 空撮実施。本日をもって全作業終了。

【整理作業】

他の発掘調査も実施していたため、平成11年度の発掘調査がすべて終了した12月上旬より整理作業を取り掛かる。遺物の洗浄作業、複合作業、注記作業は他の発掘調査出土遺物と並行して行ったため、2月中旬に終わる。遺物の実割は平成12年度に入れてから行い、平成12年内に実割終了。平成13年1月に各図面の整理・製作作業を行い、統合して原稿執筆。3月末には報告書発行となった。

II 遺跡の立地と歴史的環境

境窪遺跡は、松本市・山形村境、松本市神林川西集落の南西約1.4km、現在の鎮川から西へ約900mに位置し、標高650m、鎮川が作り出した氾濫原上にある。かつて山形村、今井村、神林村の村境線が集まるところであったので境窪と呼ばれた。

当地の地層・堆積・地形の形成については、平成7年、8年に実施された境窪遺跡第1次調査と、これに北接する川西開田遺跡の調査によっておおむね判明している。下層には鎮川・三間沢川の河床疊・運搬土による疊層(①)があり、その上には表面へ向かって順に、暗黄褐色土層(②)、暗褐色土層(③)、黄色～黄褐色土層(④)、黒褐色土層(⑤)、耕作土(⑥)が堆積している。今回の第2次調査区では、下層の疊層まで掘削しなかったが、上記の順で堆積している状況を、②の暗黄褐色土層まで確認したので、この下には疊層が広がっていると思われる。そのうち暗褐色土層の③には、縄文時代の遺構・遺物が川西開田遺跡では含まれており、境窪遺跡第1次調査区でも多少見られた。しかしながら、今回の第2次調査区(第2図 IV・V層が該当)では縄文時代の遺物は皆無であった。弥生時代の遺物は⑤の黒褐色土層に含まれており、④の黄色～黄褐色土層に各遺構は掘り込まれている。今回の第2次調査区では、④の黄色～黄褐色土層(III層)まで開田に伴う削平が広範囲に及んでおり、⑤の黒褐色土層(II層)は調査区北側にしか確認できなかった。なお、今回の調査区北側には疊層が広がっているのを試掘調査時に確認しており、旧来の三間沢川河道によるものと考えられる。なお境窪遺跡第1次調査区の西側、今回の第2次調査区との間には、平安時代には埋没したと考えられる谷状地形が存在していたことが明らかになっており、谷を挟んだ西と東に集落が営まれていたということが判明した。

松本市、山形村境にあたるこの地域の遺跡分布状況は、今一鮮明ではない。それでも昭和62・63年度に三間沢川左岸遺跡、平成7～11年度に境窪遺跡、川西開田遺跡の発掘調査が松本市教委によって実施され、境窪遺跡周辺の遺跡分布状況はかなり見えてきている。一方少し離れた松本市神林地区、今井地区的遺跡分布は、昭和30年代に行われた開田工事の際、中信考古学会メンバーによって行われた踏査の成果に頼るしかない状況である。山形村側においても、全国遺跡地図を作成する際に踏査した成果を、十分追認することなく踏襲してきている。従ってここに示した遺跡分布図は必ずしも正確とは言えず、分布調査や確認調査などによって精度を高めていく必要がある。

この周辺で人間が生活をはじめたのは旧石器時代末で、山形村三夜塚遺跡(第1図8)で局部磨製石斧が発見されている。続く縄文時代の遺跡は、山形村側で多く見つかっている。本格的な発掘調査は実施されていないが、中期を中心とした時期の遺物が数多く発見されている三夜塚遺跡(8)をはじめ、下原遺跡(7)、堀ノ内遺跡(9)、北竹原遺跡(10)がある。ここからは南へ離れるが、三間沢川左岸遺跡(11)、三間沢川右岸遺跡(12)もこの期の遺跡として知られている。松本市側では、境窪遺跡の北隣にある川西開田遺跡(2)(平成10・11年調査)で、縄文時代中期初頭～中葉前半の集落跡が水田の地下深くに発見され、中期初頭の竪穴式住居址7基、中期中葉前半の竪穴式住居址20基などが検出された。その他に、こぶし畑遺跡(14)(昭和45年調査)では早期の集石遺構と押型文土器、今井北耕地遺跡(13)(平成8年調査)では晩期水式期の土坑が検出されている。

それに比べ弥生時代の遺跡は少ない。こぶし畑遺跡(14)、今井北耕地遺跡(13)で遺物の出土が報じ



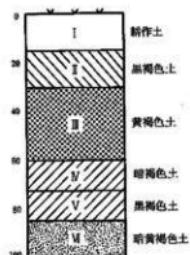
第1図 遺跡の位置と周辺遺跡

られている程度である。古墳・奈良時代についても同様で、平成7・8年度に実施された川西開田遺跡で古墳時代の土器が少量出土している程度である。

この周辺地が再び脈やかになるのは、平安時代9世紀に至ってのこと、これまでに松本市三間沢川左岸遺跡(3)(昭和62・63年調査)、川西開田遺跡(2)(平成7・8年調査)、境窪遺跡(1)(平成7・8年調査)が調査されており、多くの遺構・遺物が発見された。特に松本市三間沢川左岸遺跡では、9世紀前半~10世紀後半迄の大集落跡が見つかり、250基の竪穴式住居址、掘立柱建物群、「長良私印」銘の銅印、帶金具、八稜鏡、綠釉陶器など、一般的な集落とは違う様相を示すことから、莊園を構成する集落跡

と考えられている。なお山形村側では、大規模な集落跡は発見されておらず、水田に向かない地勢と言うことと思われる。

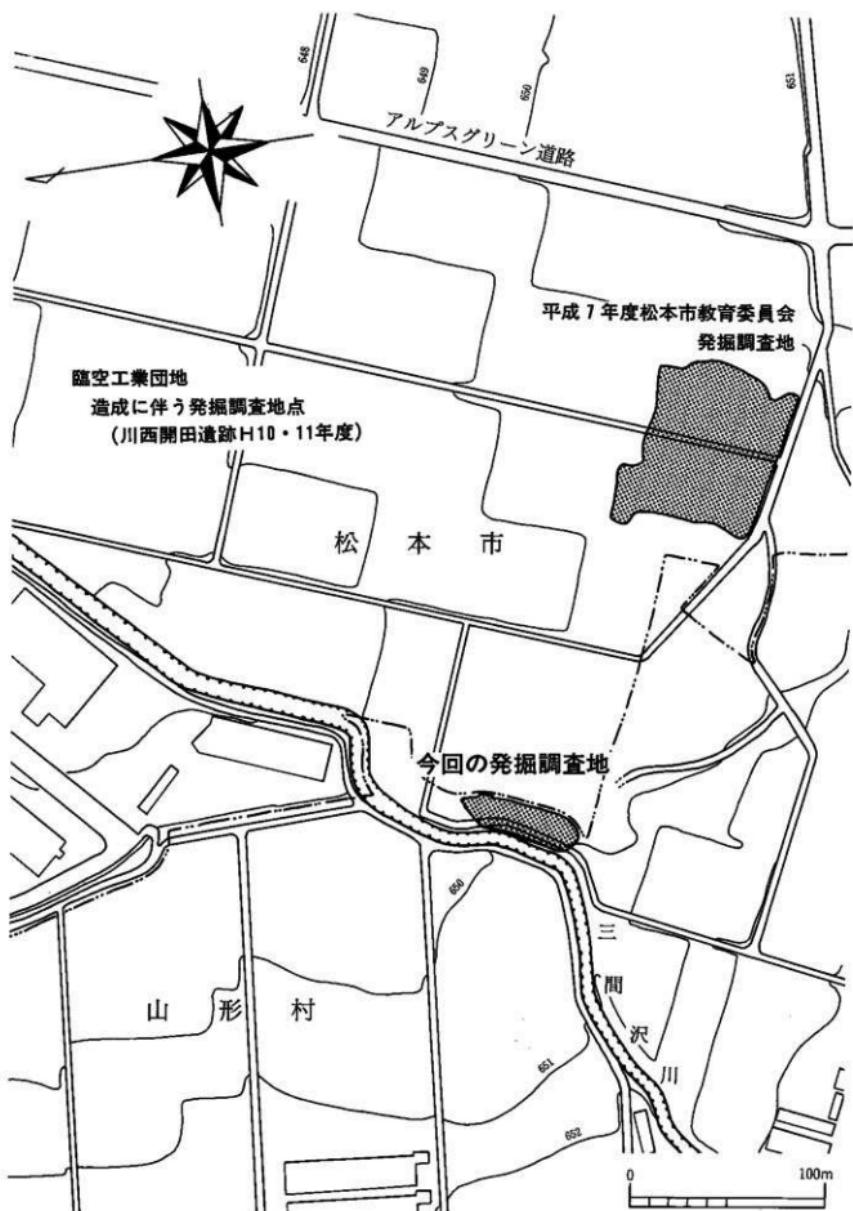
これ以降、中世の遺跡は再び数が少くなり、松本市三間沢川左岸遺跡(3)から区画溝が発見され、この地から出土したと伝えられている青銅製孔雀紋鏡が存在する。また、おびただしい数の土坑墓群が川西開田遺跡(2)の発掘調査で発見されているが、この墓に埋葬された人々が暮らしていた集落跡は発見されていない。



第2図 土層構成

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳	平安	中世	
1	境窪			○		○		平成7年度調査
2	川西開田		○		○	○		平成7・8・10・11年度調査
3	三間沢川左岸					○	○	昭和62・63年度調査(松本市)
4	神林川西							
5	和田太子堂							
6	和田下原							
7	下原			○				
8	三夜塚	○	○					昭和55・56年度調査
9	堀ノ内		○			○	○	昭和57年度調査
10	北竹原		○					
11	三間沢川左岸		○					(山形村)
12	三間沢川右岸		○					
13	今井北耕地		○			○		平成7・8年度調査
14	こぶし畑		○	○		○		昭和45年度調査



第3図 発掘調査範囲

III 調査の結果

1. 調査の方法

墳墓遺跡の範囲については、平成7年度に松本市教育委員会にて実施した第1次調査により、遺跡の東、南、北の端は大方確定できているが、西については不確定的な要素が多くあった。よって、三間沢川河川改修事業地内のどの範囲に遺跡があるのかを調べ、発掘調査範囲を確定させる必要があったため、まず試掘確認調査を実施することとした。試掘確認調査は、平成10年度村内遺跡等発掘調査事業の一部として実施され、その結果から調査範囲を確定させた。なお本来であれば、発掘調査範囲として三間沢川の法面際まで含める必要があったが、耕作地より1m程高くなっている堤防を削り取ることになり、治水の面から適当ではないと判断したため、堤防部分に関しては一切手をつけなかった。

調査はまず重機によって全体の表土を遺構が掘り込まれている黄褐色土層(III層)直上まで除去したが、調査区北側には遺物包含層である黒褐色土層(II層)が残っており、弥生時代の遺物が部分的に集中して存在したため、この部分に関しては重機を使用せず人力にて表土除去を行った。以後の遺構検出及び遺構掘り下げに関しては、すべて人力にて行った。遺構の掘削は、竪穴式住居址は4分割し、その他に関しては半分掘削した後、土層観察を行い、分層できるものや特殊なものに関しては土層断面図の作成と土色・土質の記録を行い、その他は土色・土質の観察を行い完掘した。なお開田された折の削平が、調査区の南側では黄褐色土層(III層)まで及んでおり、この箇所については遺構の残存状況がよくなかった。

遺構番号は、遺構の規模・状態により土坑：「土」、ピット：「P」、竪穴式住居址：「住」と冠したが、土坑とピットに関しては、その規模が大きいが小さいかで分けたため、必ずしも適当な名称が与えられていないものもある。番号については、第1次調査に続く第2次調査になるため、「001」からの通り番号ではなく、第1次調査の続きとなる番号からつけた。竪穴式住居址は「13住」、土坑は「土216」、ピットは「P649」からである。遺構等の測量記録は、松本臨空工業団地造成に関する図根点が存在し、この調査期間中に同時並行して、松本市側にて川西開田遺跡の発掘調査が実施されていたため、松本市教育委員会の御協力をいただき、これらから得た真北方向を調査区まで引き込み使用した。作図はすべて1/20で行った。写真はモノクロネガとリバーサルフィルムを使用し、主として35mmカメラで撮影した。また、遺跡の全容をつかむために航空写真を委託して撮影している。

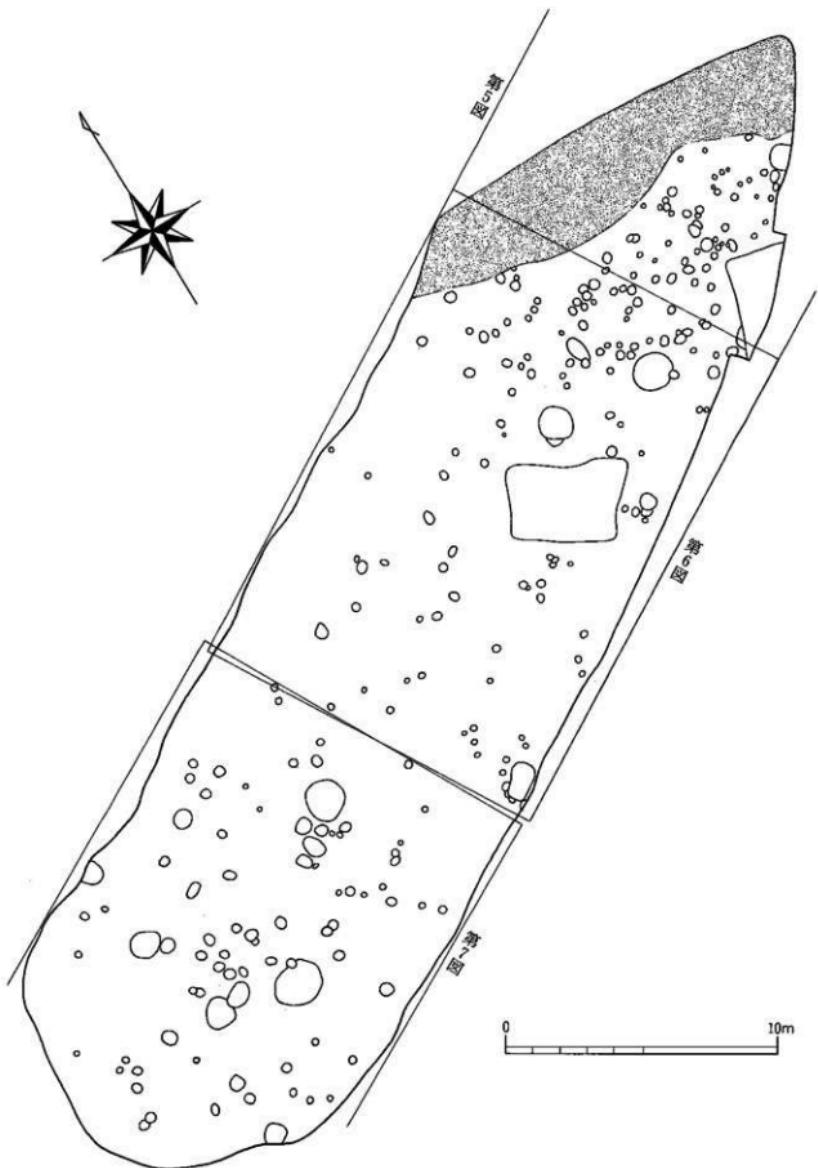
2. 検出遺構

(1) 竪穴式住居址

① 第13号住居址(第8図)

位置 調査区の中央よりやや北寄り、北端に広がる疊層へ向かって黄褐色土層(III層)が落ち始める箇所から検出された。他の遺構との切り合い関係はない。

形状 南北2.8m、東西4.4mと、この時期の住居址としては小型で、北東隅にはカマドが設けられ

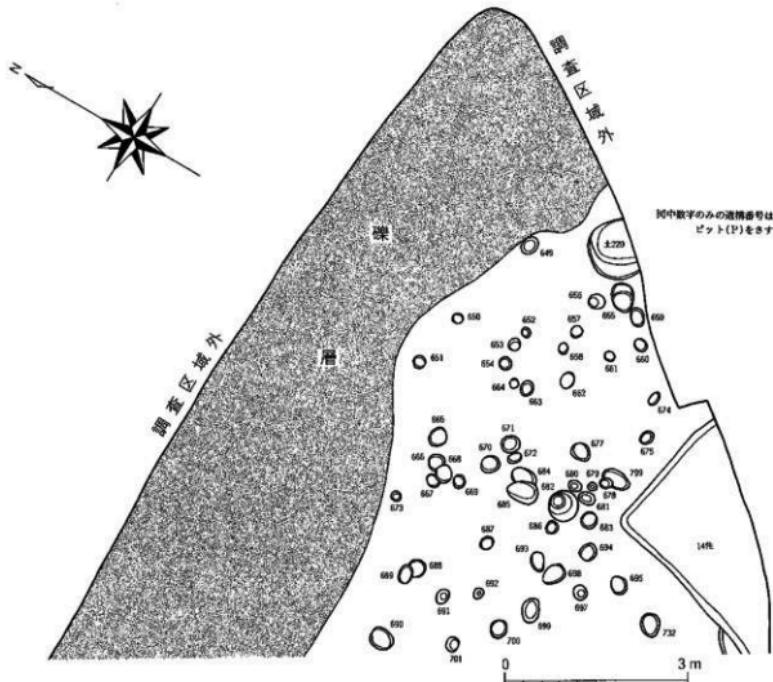


第4図 造構全体図 ($S = 1/180$)

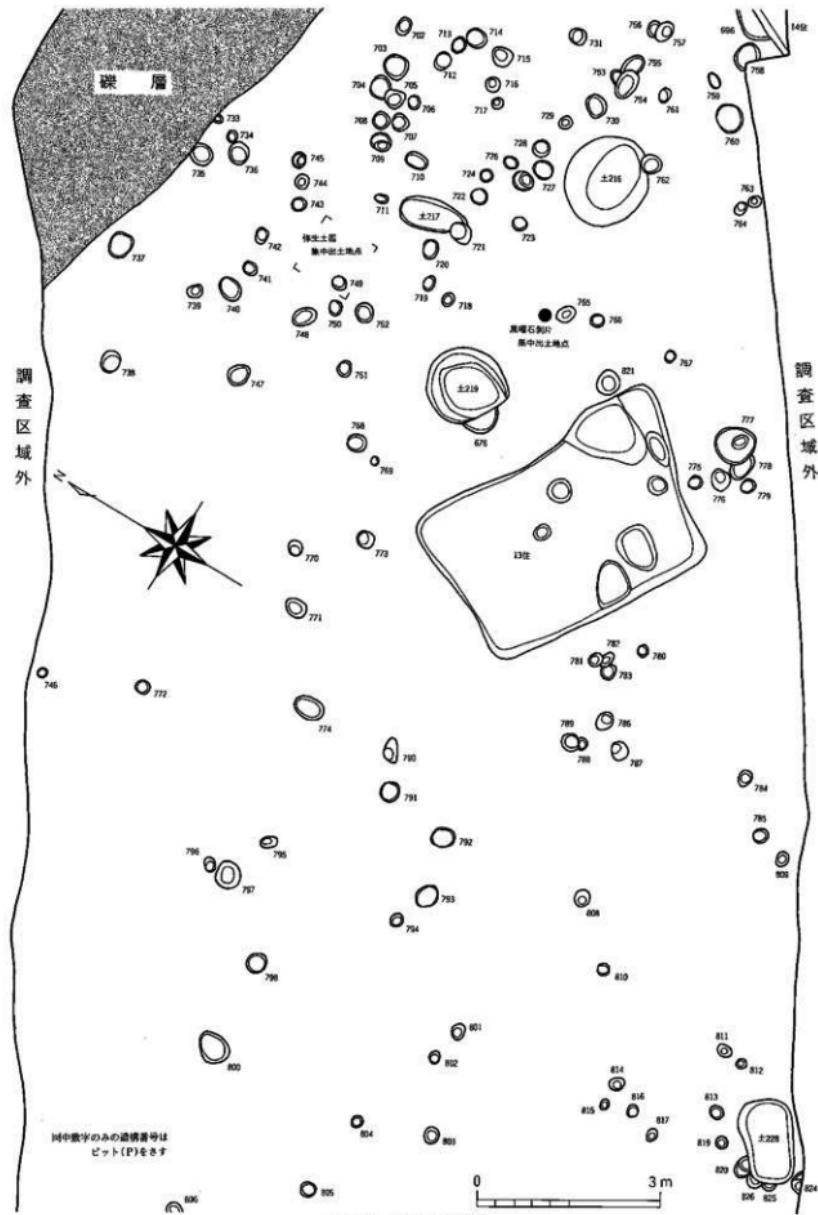
ているため、外側へ幾分張り出している。遺構面から床面までは深さ20cmで、ほぼ垂直に掘り込まれていた。

覆土 4層に分層された。I層は炭・褐色土粒を少し含む黑色土(10YR2/1)、II層は褐色土粒を含む黒褐色土(10YR3/1)、III層は炭・褐色土粒を含む黑色土(10YR1.7/1)、IV層は黒色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合層であった。覆土中からは土器片の出土(第9図4など)があったが、いずれも小破片で固化するに至らないものばかりであった。なお住居址の東側の覆土中に多くの土器片が認められ、西側からはあまり出土していない。

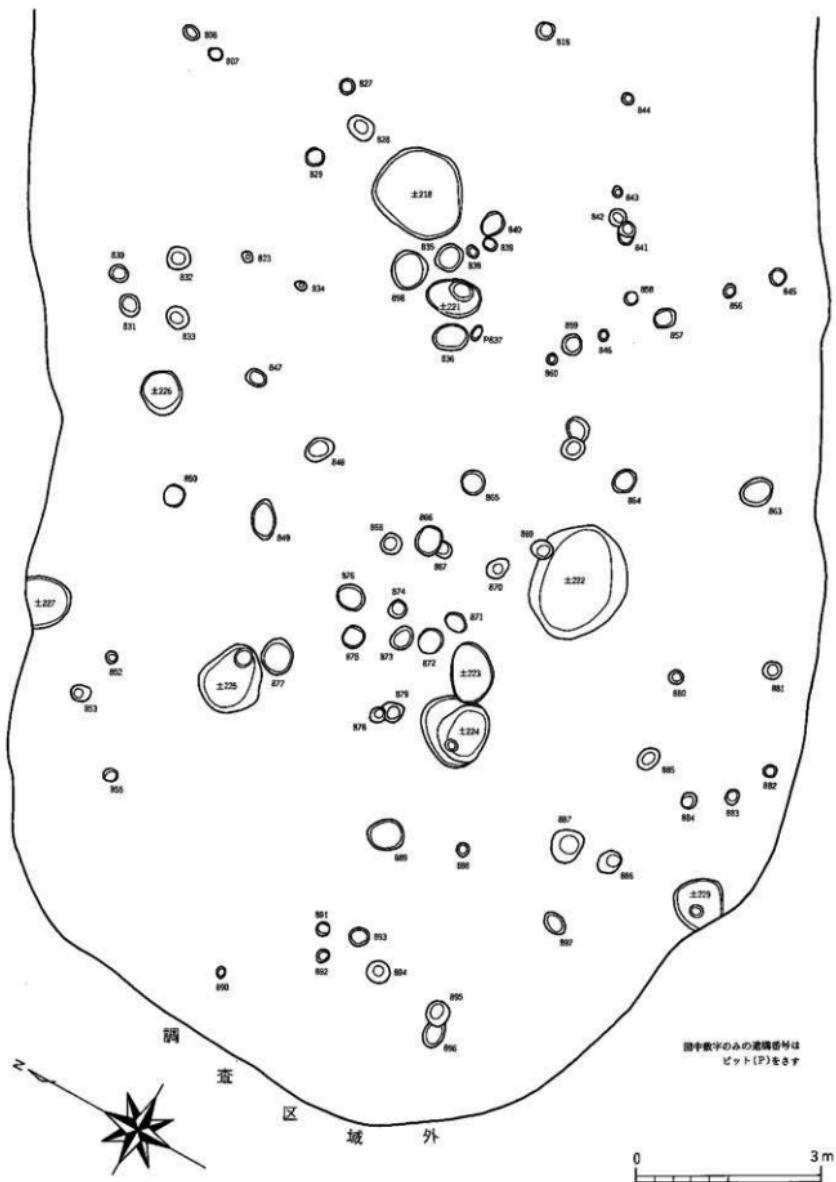
ピット 6つ存在し、P1が深さ14cm、P2が深さ20cm(共に覆土は、10YR3/1 黒褐色まりなし、粘性あり 褐色土粒含む)と他のピットに比べると深さがあり、住居址の長軸に沿う形で中央に存在するので主柱穴と判断したい。P3はカマドのすぐ東側、住居址の壁との狭い部分に掘られており、当遺跡の北隣にある川西開田遺跡の調査で、貯蔵用のピットとして検出されたものに酷似する。平面形は長梢円形で深さ15cmを測り、覆土は焼土を多く含む黒色土(10YR2/1 黒)であった。中から須恵器杯破片(第9図1・2)、土師器小型壺破片(第9図3)が出土している。その他P4~6は、深さが5cm弱で浅い皿状を呈し、覆土に大量の焼土や炭が含まれていたが、ピット底面は赤く焼き締まった状況で



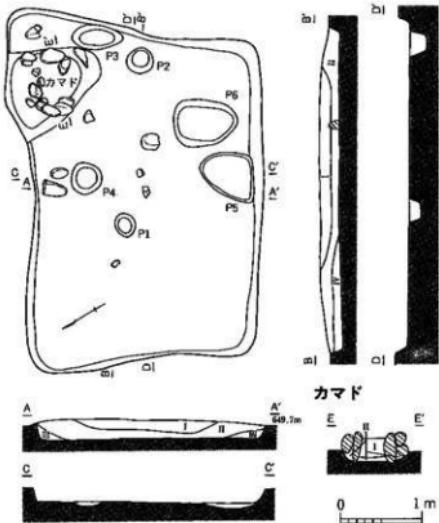
第5図 遺構平面図(1)



第6図 遺構平面図(2)



第7図 遺構平面図(3)

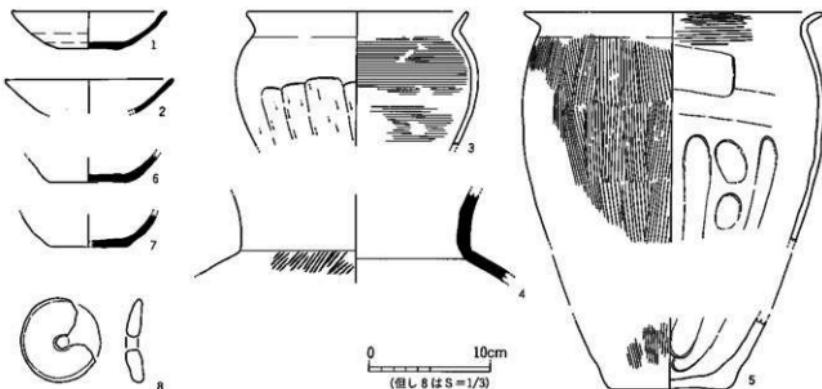


第8図 第13号住居址

② 第14号住居址 (第10図)

位置 調査区の北端にあり、住居址の東側大半が調査区域外まで及ぶため、1/4程しか調査することが出来なかった。またP696を切っている。

形状 殴丸方形状を呈すと推測されるが、規模は不明である。なお床面までの深さは25cm程度であ



第9図 土師器・須恵器・土製品

はなかった。カマドから生じた焼土・炭を廃棄した箇所と見うけられる。

カマド 住居址の北東隅の外へやや張り出した箇所に設けられている。石組カマドで、両袖は原位置をとどめている石が残っていたが、天井部は破壊され残っていなかった。カマド内の覆土は焼土・炭を多く含む暗褐色土(10 YR3/3)で、遺構面のレベルからやや下がった高さ、かなり浮いた位置から土師器甕(第9図5)など、破片となった土器がまとまって出土しており、カマド廃棄時に投げ込まれた遺物と推測される。

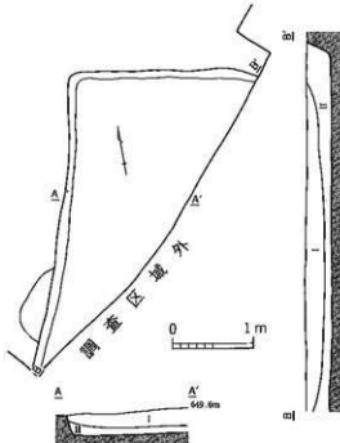
時期 出土遺物から9世紀中頃(中央道長野線発掘調査報告書の時期区分では7期)に位置付けられる。

り、ほぼ垂直に掘り込まれていた。

カマド・ピット 1/4程しか調査できなかったので、調査できた範囲からは見つかっていない。

覆土 2層に分層された。I層は1cm程の褐色ブロックを多く含む黒色土(10YR2/1)で、やや粘性を帯びていた。II層は1cm程の褐色ブロックを多く含む黒褐色土(10YR3/2)で、粘性があった。覆土中からは頗るな遺物の出土は見なかつたが、須恵器杯の底部破片(第9図6・7)が床面に近い箇所から出土した。なお覆土中からは、混入したと思われる弥生土器片(第13図17~19)や、石錐(第14図13)が出土している。

時期 遺物の出土が少なく、小片であるため判断に苦しむが、9世紀初頭(中央道長野線発掘調査報告書の時期区分では5期)だろうか。



第10図 第14号住居址

(2) 土坑(第11図、第2表)

総数14基が検出された。直径約50cm以上の穴のうち、明確な柱穴を除いたものを土坑として扱ったが、ピットとの明瞭な区分が出来ているわけではない。また掘り込みが浅く覆土が単層で、遺物を全く含まない土坑は、遺構面とした黄褐色土層(III層)上面の自然な凹凸を捉えた可能性がある。境窓遺跡第1次調査報告書の土坑の分別に準じて記してみたい。

A類 底面が平坦で壁との境界が明瞭なものを一括した。平面形態の違いから4種に細別する。

A 1 整った円形を呈するもの。壁は直か斜めで、底面は平坦。土218・226が該当する。両土坑とも掘り込みが10cm程と浅い。

A 2 楕円形を呈し、壁は傾斜するもの。土216・223・227等が該当する。掘り込みの深いもの(土216)、浅いもの(土223・227)、両者が存在する。

A 3 長方形を呈するもの。土229が該当する。第1次調査の報告書では墓の可能性がある土坑として扱っている。

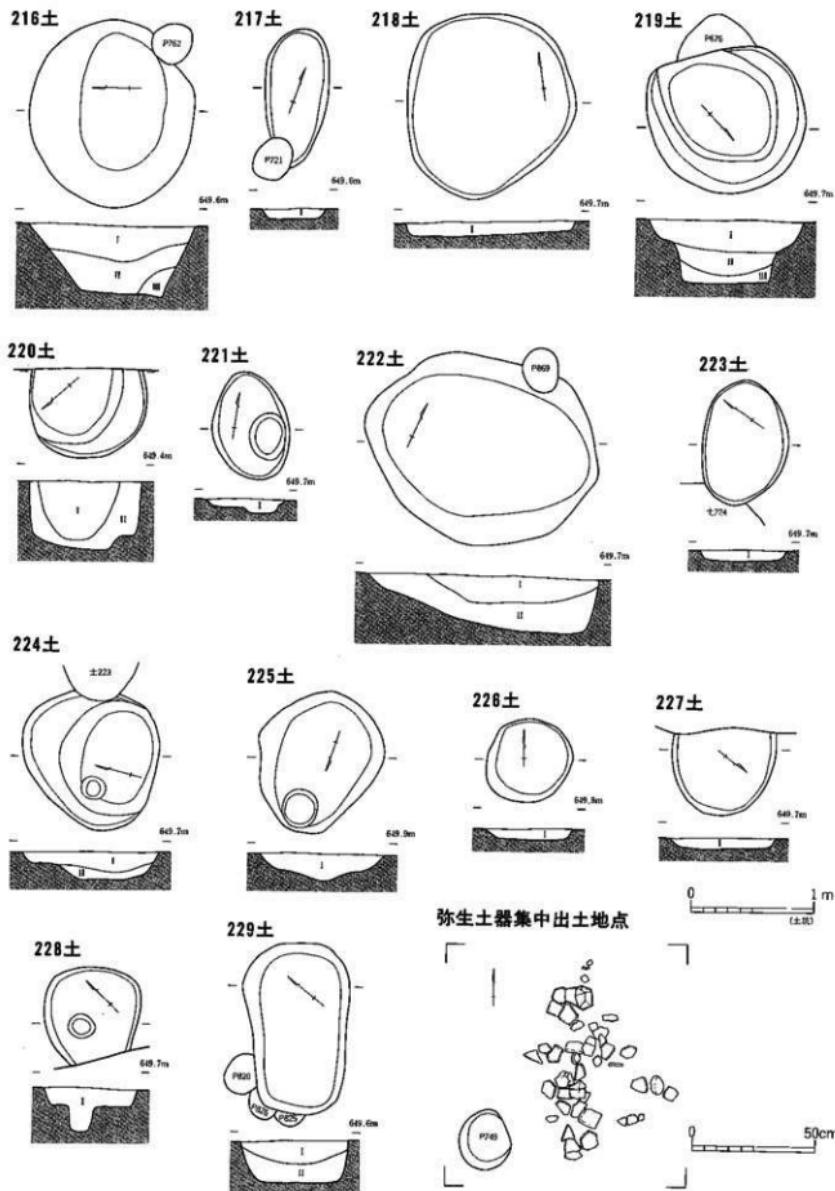
A 4 長楕円形を呈するもの。土217が該当する。掘り込みは浅い。

B類 壁から底面へなだらかに移行し、船底状を呈するもの。土222が該当する。

C類 円ないし楕円形のA類土坑の底面に、壁に接してピット状の一段深い底面が伴うもの。土221・224・225が該当する。

E類 2段の掘り込みをしているもの。土219・220が該当する。

なお、土坑の帰属する時期であるが、遺物が1片も出土しなかつた土坑が大半で、出土した土坑も小片や黒曜石の剝片が極少量という状況であり、判断が困難である。但し、平安時代の土器片が出土した土坑は1つも無かつたので、弥生時代中期前半のものが多いと考えたい。



第11図 土坑他

(3) ピット (第3表)

総数245基が検出された。調査区の北端、第13号、14号住居址に囲まれた部分に分布の集中がみられ、明瞭に柱痕が認められるピット (P694・712・728) が存在した。一部掘立柱建物址と捉えることができそうな配列の箇所もあったが、多くのピットが間隔なく重複して検出されたので、積極的に捉えることはできなかった。ピットから出土した遺物は、図化した弥生土器 (第12図9、第13図15など) のほか、弥生土器が少量認められているのみである。

(4) 弥生土器集中出土地点 (第11図)

調査区北端、弥生時代の遺物包含層である黒褐色土層中 (II層) から検出された。弥生時代中期前半～中葉の完形にはならない土器の破片がかたまって出土している。この遺物包含層である黒褐色土層は、調査区北側に広がる疊層へむかって地形が低くなっていた部分にのみ、開田に伴う削平をうけずに残っていたが、遺物が多く見られたのはこの地点と、黒曜石剝片集中出土地点の間及び周辺に限られ、黒褐色土層中から何らかの遺構が掘り込まれ、この遺構に伴っていた可能性がある。

(5) 黒曜石剝片集中出土地点 (図版3)

調査区の北寄り、第13号住居址の北側から検出された。弥生時代の遺物包含層である黒褐色土層中 (II層) からの出土で、石器製作時に生じたと考えられる剝片が、60×30cm程の範囲に集中していた。大きなものは2cm、10g程あるが、大半は5mm以下のグラム秤では測れない重さの微細な剝片である。石材はすべて黒曜石で、総量250.5gである。

第2表 土坑一覧表

遺構番号	規格(cm)	平面形態	覆土	切り合い関係	備考
	長径 短径 厚さ				
土216	155 124 57	椭円形	I : 10YR2/1 黒 縞まりあり、粘性なし 褐色土粒含む II : 10YR1.7/1 黒 縞まりややあり、粘性あり III : 10YR2/2 黒褐 縞まりややあり、粘性あり	>P762	弥生土器 小片3
土217	112 52 8	長楕円形	I : 10YR3/2 黒褐 縞まりややあり、粘性なし	>P721	
土218	153 138 12	円形	I : 10YR3/1 黒褐 縞まりあり、粘性なし 褐色土粒含む		
土219	135 126 53	不整円形	I : 10YR3/1 黑褐 縞まりあり、粘性なし 褐色土粒含む II : 10YR3/2 黑褐 縞まりややあり、粘性あり III : 10YR2/1 黑 縞まりややあり、粘性あり	<P676	黒曜石剝片1
土220	— 95 57	円形	I : 7.5YR2/1 黑 縞まり・粘性ややあり 褐色土粒含む II : 10YR3/2 黑褐 縞まり・粘性あり 褐色土ブロック少しあむ		南半調査区外
土221	91 62 13	卵形	I : 10YR2/1 黑 縞まり・粘性ややあり 褐色土粒含む		
土222	207 153 45	椭円形	I : 10YR2/1 黑 縞まり・粘性あり 褐色土粒含む II : 10YR2/2 黑褐 縞まり・粘性あり 褐色土ブロック・灰含む	>P869	黒曜石剝片2
土223	102 69 9	椭円形	I : 10YR2/1 黑 縞まり・粘性ややあり 褐色土粒含む	<土224	
土224	120 112 25	不整円形	I : 10YR3/2 黑褐 縞まり・粘性あり 褐色土ブロック含む II : 10YR2/2 黑褐 縞まり・粘性あり 褐色土ブロック多く含む	>土223	
土225	118 103 35	不整椭円形	I : 10YR2/2 黑褐 縞まりあり、粘性なし 5mm程の小石多く含む		
土226	70 68 10	円形	I : 10YR2/1 黑 縞まり・粘性ややあり 褐色土粒含む		
土227	— 84 10	椭円形	I : 10YR2/1 黑 縞まり・粘性ややあり 褐色土粒含む		南西調査区外
土228	— 81 36	不整椭円形	I : 10YR2/2 黑褐 縞まり・粘性なし 褐色土粒含む		南西調査区外
土229	125 87 25	卵丸 長楕円形	I : 10YR2/2 黑褐 縞まりあり、粘性なし 5mm程の小石・灰含む II : 10YR3/1 黑褐 縞まりややあり、粘性なし 褐色土ブロック・灰含む	<P820-825-826	

第3表 ピット一覧表

番号	長径	短径	深さ	層土	切り合い関係	備考	
P649	31	25	20	10YR3/1 黒褐色土			
P650	19	15	8	10YR2/1 黒色土 褐色土粒・炭含む			
P651	18	16	20	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P652	16	15	10	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P653	18	18	24	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P654	22	18	22	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P655	48	36	25	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P656	25	25	28	10YR3/1 黑褐色土			
P657	19	17	9	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P658	17	16	9	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P659	30	21	20	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P660	21	18	14	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P661	16	15	7	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P662	27	23	10	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒少し含む		第12面 12	
P663	26	23	10	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P664	15	14	6	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P665	32	30	20	10YR3/1 黑褐色土			
P666	27	25	15	10YR3/2 黑褐色土	> P668		
P667	24	16	10YR3/2 黑褐色土	> P668			
P668	28	26	16	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む	< P666 + 667		
P669	20	19	9	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P670	34	26	21	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒少し含む			
P571	31	26	20	10YR3/1 黑褐色土			
P672	25	15	18	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む			
P673	15	15	8	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む			
P674	20	14	11	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む			
P675	22	16	14	10YR3/2 黑褐色土		土器小片3	
P676	65	27	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	> ±219			
P677	29	28	14	10YR2/1 黑褐色土 炭少し含む		弥生土器小片7	
P678	17	15	22	10YR2/1 黑褐色土	< P799		
P679	14	14	7	10YR2/1 黑褐色土		黒曜石鉄片1	
P680	18	18	8	10YR2/1 黑褐色土			
P681	27	20	14	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む			
P682	49	45	25	10YR3/1 黑褐色土			
P683	26	25	12	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒・炭少し含む			
P684	40	15	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	> P685			
P685	49	34	15	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	< P684		
P686	19	18	9	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む			
P687	19	19	7	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P688	28	27	9		> P689		
P689	29	21	6	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む	< P688		
P690	41	34	19	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P691	24	23	15	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P692	16	15	4	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P693	30	20	5	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P694	30	26	12	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む(柱)		掘方 黒褐色土	
P695	27	26	23	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P696		22			> 14往		
P697	25	20	18				
P698	39	27	13	10YR3/2 黑褐色土			
P699	40	27	13	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む			
P700	28	27	12	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P701	22	22	9	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		土器小片2	
P702	30	22	24	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P703	40	39	14	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P704		36	19	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P705	34	32	23	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	> P706		
P706	22	20	9	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む	< P704		
P707	29	27	14	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P708	29	26	11	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む			
P709	35	30	23	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			
P710	39	25	19	10YR3/2 黑褐色土			
P711	21	13	7	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む			
P712	30	26	26	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む(柱)		掘方 黒褐色土	
P713	27	24	15	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む			

番号	長径	短径	深さ	覆土	切り合い関係	備考
P714	35	31	2			
P715	35	29	4			
P716	24	24	15	10YR2/2 黒褐色土 褐色土粒含む		
P717	19	17	14	10YR2/1 黒色土 褐色土粒・炭含む		
P718	22	17	5	10YR2/1 黒色土 炭少し含む		
P719	25	18	5	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒少し含む		
P720	32	25	13	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒少し含む		
P721	36	29	17	10YR2/1 黑褐色土 炭少し含む	<±217	
P722	27	26	7	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P723	24	22	7	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P724	26	19	6	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P725	34	29	27	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭少し含む		
P726	23	18	15	10YR3/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P727	32	27	13	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭少し含む		
P728	29	23	26	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む(柱)		翻方 黑褐色土
P729	23	19	16	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P730	37	30	16			
P731	27	25	10			
P732	38	32	2			
P733		13	9	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む	>疊層	
P734	20	18	20	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む		第12回 15
P735		34	18	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む	>疊層	
P736	37	33	24	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		土壤小片3 黑曜石剝片1
P737	43	37	13	10YR2/1 黑褐色土		黑曜石剝片3
P738	36	31	31	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・砂粒多く含む		
P739	25	21	15	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒少し含む		
P740	49	32	15	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・砂粒多く含む		
P741	25	21	9	10YR2/1 黑褐色土		
P742	26	20	19	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む		
P743	26	23	17	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む		第12回 16
P744	24	23	34			土壤小片2
P745	23	22	14			
P746	15	13	21			共生土壤小片1
P747	49	32	27	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒少し含む		
P748	41	28	14	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・砂粒多く含む		
P749	26	21	7	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P750	27	21	11	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P751	27	23	16	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・砂粒多く含む		
P752	33	28	24			
P753		23			>P754・755	
P754	48	32	12	10YR3/1 黑褐色土	<P753・755	
P755		28	9	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む	>P754, <P753	
P756		24	14		>P757	
P757	35	26	17	10YR3/2 黑褐色土	<P756	
P758	48		8	10YR3/2 黑褐色土		
P759	25	15	15	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む		
P760	47	40	8			
P761	24	19	14	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒多く含む		
P762	34	32	11	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む	<±216	土壤小片1
P763	28	19	7	10YR2/2 黑褐色土 砂粒含む		
P764	23	20	13	10YR2/2 黑褐色土 砂粒含む		
P765	32	23	34	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P766	23	17	24	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P767	17	17	13	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P768	32	26	12			
P769	13	11	5	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P770	26	24	8	10YR3/1 黑褐色土		
P771	35	30	11	10YR2/2 黑褐色土 砂粒含む		
P772	22	21	9	10YR2/1 黑褐色土		
P773	29	28	22	10YR3/1 黑褐色土		
P774	50	33	11	10YR3/2 黑褐色土		
P775	24	22	4	10YR2/1 黑褐色土		
P776	37	31	12	10YR2/1 黑褐色土		
P777	62	61	20	10YR2/2 黑褐色土 砂粒含む	<P778	
P778	49		7	10YR2/1 黑褐色土	>P777	
P779	22	21	7	10YR2/1 黑褐色土		

番号	長径	短径	深さ	覆土	切り合ひ関係	備考
P780	17	16	15	10YR3/1 黒褐色土		
P781	25	19	15	10YR2/1 黒色土	< P782	
P782	27	12	10	10YR3/1 黑褐色土	< P783, > P781	
P783	22	11			> P782	
P784	27	21	4	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P785	24	21	4	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P786	33	26	30	10YR3/1 黑褐色土		
P787	30	26	20	10YR3/1 黑褐色土		
P788		18	14	10YR3/1 黑褐色土	> P789	
P789	30	28	10	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む	< P788	
P790	39	24	31	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P791	32	31	15	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P792	40	31	14	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P793	38	33	7			
P794	21	26	18	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P795	30	17	11	10YR3/2 黑褐色土		寄生土層片1 黑褐色剝片1
P796	25	17	26	10YR3/2 黑褐色土		
P797	45	39	19	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		寄生土層小片2
P798	33	32	8	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P799	44	27	27	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		第11図 9 他跡生土層片7
P800	56	45	14			
P801	25	23	13	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P802	19	19	9	10YR3/2 黑褐色土		
P803	24	24	20	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P804	20	17	13	10YR2/2 黑褐色土		
P805	26	23	11	10YR2/2 黑褐色土		
P806	27	23	11	10YR2/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P807	23	22	5	10YR2/2 黑褐色土		
P808	26	26	33	10YR3/2 黑褐色土		
P809	22	20	5	10YR2/1 黑色土		
P810	22	21	4	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P811	24	18	4	10YR2/2 黑褐色土		
P812	17	17	5	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P813	24	21	5	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P814	23	21	9	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P815	17	16	7	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒多く含む		
P816	19	18	3	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒多く含む		
P817	21	16	3	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒多く含む		
P818	30	29	12	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒多く含む		
P819	19	19	6	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P820		28	16	10YR2/2 黑褐色土 棕色土粒含む	> 土228, < P826	
P821						欠番
P822						欠番
P823	19	17	13	10YR2/1 黑色土 棕色土粒 褐色土粒 含む		
P824	39		13	10YR2/2 黑褐色土 棕色土粒含む		土層小片2 チャート剝片1
P825		12				
P826		20	10YR3/2 黑褐色土		> 土228, P826	
P827	25	22	12	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P828	44	35	30	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P829	30	30	18	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P830	36	28	10	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P831	39	31	12	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P832	40	36	16	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P833	36	36	17	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P834	16	21	14	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P835	44	40	13	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P836	59	42	17	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P837	23	14	8	10YR3/2 黑褐色土 棕色土粒含む		
P838	19	16	11	10YR2/1 黑色土		
P839	22	17	11	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P840	41	35	18	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		
P841	37	27	15	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む	< P842	
P842	31	27	14	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む	> P841	
P843	18	16	10	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		土圓片1
P844	19	18	5	10YR2/1 黑色土 棕色土粒含む		
P845	26	25	4	10YR3/1 黑褐色土 棕色土粒含む		

番号	長径	短径	深さ	土	切り合い関係	備考
P846	17	17	16	10YR3/1 黒褐色土 褐色土粒含む		
P847	34	26	15	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P848	49	35	22	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P849	55	40	10	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P850	34	32	5	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P851						欠番
P852	19	18	8	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P853	30	27	20	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P854						欠番
P855	24	29	18	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P856	21	18	15	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		弥生土器小片5
P857	38	32	14	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P858	23	22	8	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P859	35	33	13	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P860	18	18	4	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P861			15	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	>P862	
P862	39	35	20	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	<P861	
P863	53	45	13	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P864	40	34	13	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P865	41	38	20	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P866	48	42	10	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む	<P867	
P867			3	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	>P866	
P868	32	32	17	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P869	34	31	4	10YR3/1 黑褐色土	<±222	
P870	39	30	15	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P871	37	28	5	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P872	41	39	7	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P873	42	34	10	10YR3/1 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P874	36	28	18	10YR3/1 黑褐色土		
P875	36	34	6	10YR3/1 黑褐色土		
P876	46	40	13	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		弥生土器小片3
P877	57	52	12	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む		
P878	25	22	4	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・炭含む	<P879	
P879	34	32	10	10YR3/1 黑褐色土	>P878	
P880	24	22	9	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P881	29	29	12	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P882	20	20	7			土器小片2
P883	25	22	3	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P884	25	25	8			
P885	39	30	8	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P886	40	33	14	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・砂粒含む		
P887	56	50	6	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒・燕少し含む		
P888	23	21	12	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P889	60	54	5	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P890	17	15	4	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P891	23	22	28	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		黒曜石側片1
P892	22	29	9	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む		
P893	33	30	12	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P894	37	36	40	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む		
P895	41	37	33	10YR2/2 黑褐色土 褐色土粒含む	<P896	
P896			33	10YR2/1 黑褐色土 褐色土粒含む	>P895	
P897	41	39	6			
P898	63	57	12	10YR3/1 黑褐色土		

* 規格の欄、空白になっているのは、切り合い関係があったり、調査区域外まで及ぶため、測量不可のもの。また単位は「cm」である。

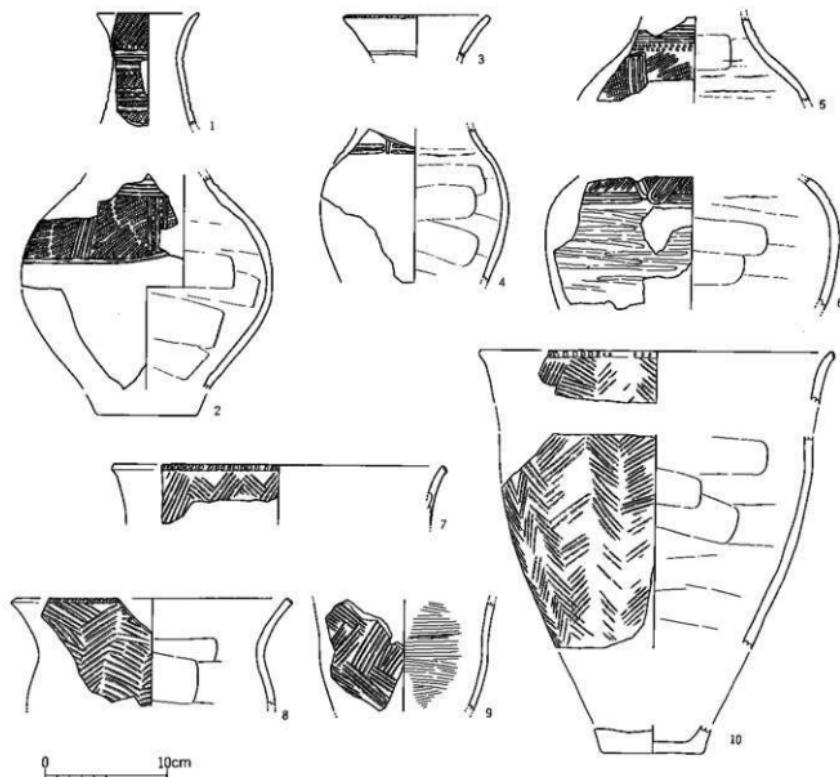
* 切り合い関係の欄、「>」:切られる、「<」:切る、である。

3. 出土遺物

(1) 弥生時代の遺物

① 土 器 (第12・13図、第5表)

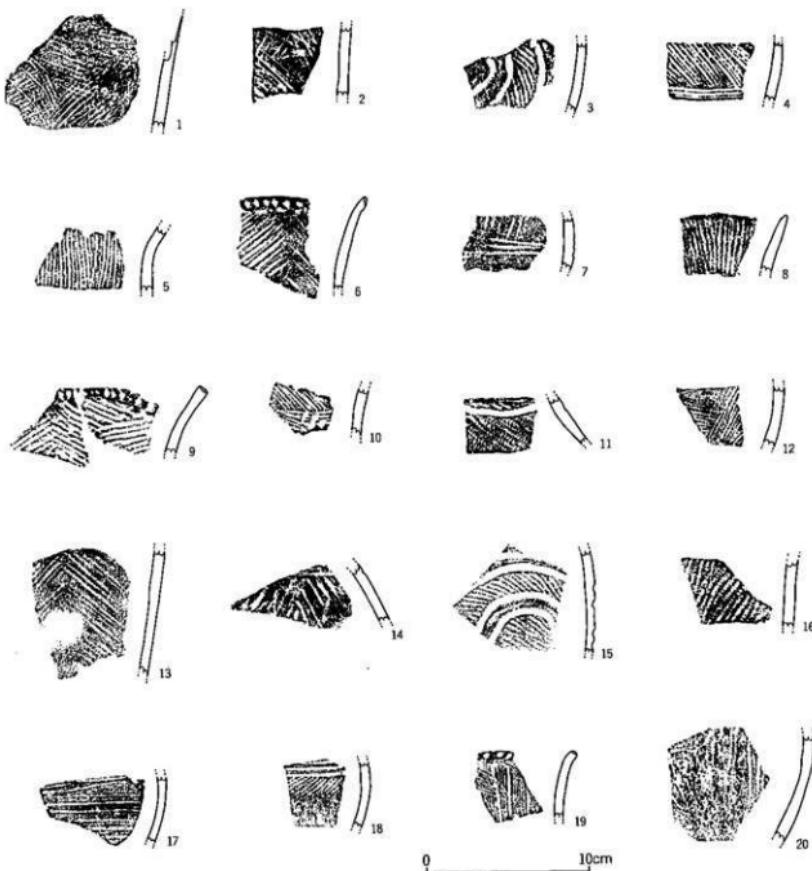
今回の調査で最も多く出土した遺物は弥生土器である。総量はコンテナ約2箱であったが、時期的にはすべて弥生時代中期前半～中葉に属するものであり、第1次調査で出土した弥生土器と同じ時期である。主に遺物集中地点である遺物包含層からの出土で、土坑・ピットに伴って出土したものは少ない。また小片が多くなったこと、粘土質の土に埋もれていたため器面がもろくなり荒れていしたこと等から、図化できなかったものが多々ある。しかしながら、山形村でこれだけまとめて弥生土器が出土したのは初めてのことであるに加え、当地域での資料蓄積が希薄な時期であることから、極力図化に努めた。以下器形ごとに概観していくが、資料が少ないので、第1次調査出土土器を検討した中で指摘されてい



第12図 弥生土器(1)

る事項を援用していく。土器それぞれの法量・器形・焼成・色調等の詳細については、観察表（第5表）を参照いただきたい。

壺 器形の全容がわかるのは同一個体と思われる第12図1・2のみである。胸部上半に最大径をもち、頸部が長く、口縁部があまり開かない長頸壺様を呈する。第1次調査出土資料では、この器形の壺が大半を占めていた。文様には沈線文、繩文、刺突文が見られる。沈線文はむしろ凹線文と呼びたくなるような断面形が丸くなる幅広のものが多く、施文具に、断面円形状で径5mm強の棒状のものが採用されている。沈線文は横方向へ巡るものが各部位に見られるほか、胸部では垂下（第12図2）させたり、三角形状に走らしたもの（第12図5・6）、円形又は同心円形状に巡らせたもの（第13図3・15）がある。



第13図 弥生土器(2)

る。これら沈線文の地文には、縄文が施文されているものが多い。単節LRの原体を用いているものがほとんどで、第13図18のみが単節RLの原体を用いている。この傾向は第1次調査で見受けられた様相と同じである。刺突文は沈線文の脇に伴っており（第12図1・5）、施文具を傾けて施文しているので半月形、半円形を呈している。また口縁端部に刻みがあるもの（第12図3）も出土している。文様は口縁部～胴部最大径付近まで施されており、それ以下底部へ向かっては無文で、横方向へのミガキ調整（第12図6）や、横方向へのナデ調整（第12図2・4）がされている。内面の調整については、口縁部付近は横方向へのナデ、頸部の最もすぼまった部位は縦方向へのナデ調整で、胴部にはイタナデの痕跡が明瞭である。また肩部内面には擬口縁の痕跡（第12図4・5・6）が認められる。

壺 器形の全容が伺える資料は第12図10のみであるが、口縁部に最大径をもち、頸部はほとんどくびれず、胴部もあまり張らない器形である。第12図8は逆に頸部がくびれ、胴部も張っていて丸みを感じさせる。第1次調査出土資料には両方の器形が認められ、様々なバリエーションが存在している様である。文様については、条痕文が施文されたものしか見つかっていない。串状の棒を数本束ねたと考えられる原体を使った、条痕の凹部のみに擦痕が見られるものがおおく、貝殻腹縁などの原体を使ったと思われる、凸部まで擦痕が認められるものは少数のように見受けられた。条痕文は胴部いっぱいに施文されているが、斜条痕（第13図4）、縦条痕（第13図5）、横条痕（第13図17）、羽状条痕があり、羽状条根には縱羽状条根（第12図7・8・10等）と横羽状条痕（第12図9等）の2つがある。条痕文は口縁部直下から胴部下半まで同じ方向の条痕が施されているが、第1次調査出土資料では、途中で条痕の方向が変わる資料も多く含まれていた。またほとんどの個体が口縁端部に刻み目を有しており、本調査出土の土器もすべて口縁端部に刻み目を持っている。

なお、鉢と判断できる器形の土器は出土していない。

② 石 器（第14図、第4表）

打製石鎌、小型磨製石斧、凹石の製品に加え、黒曜石剝片集中出土地点からはおびただしい数の剝片が、またその他の遺構からも剝片が出土している。以下概観してみる。

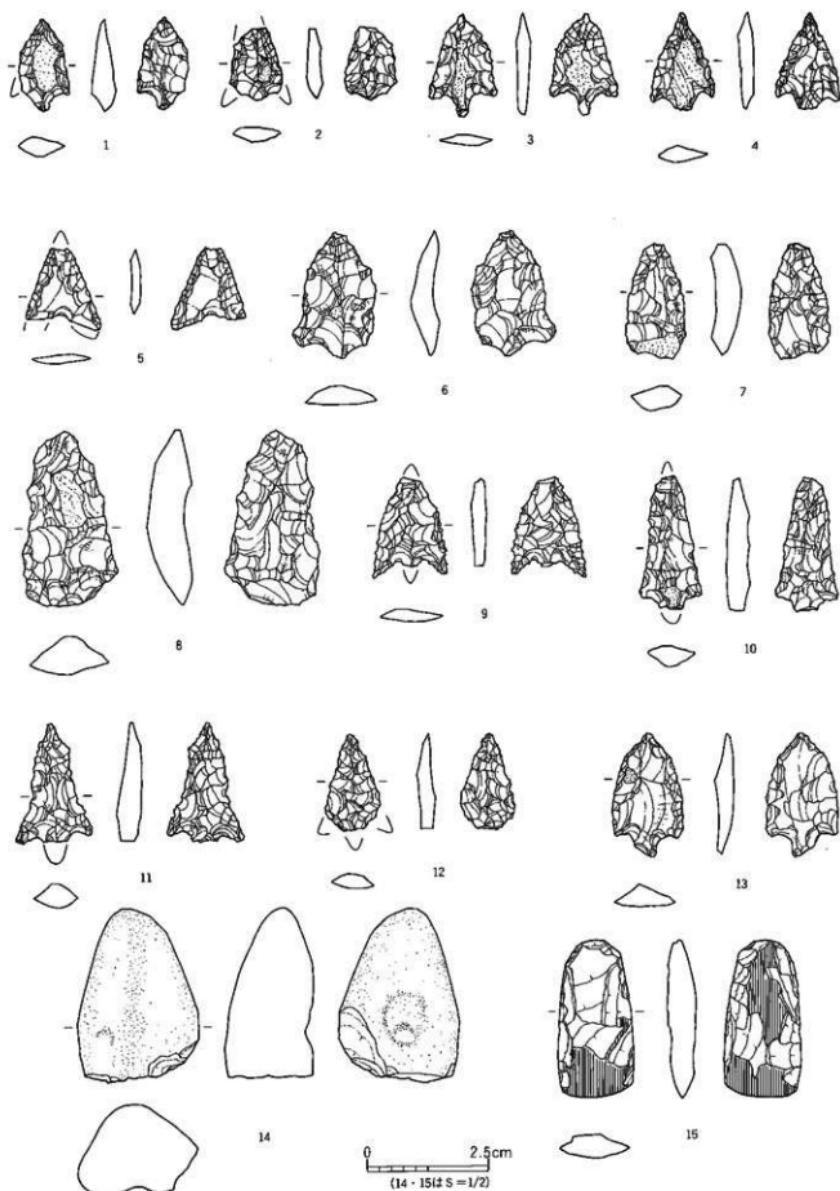
打製石鎌 合計13点が出土した。第14図13は第14号住居址覆土中（混入遺物）から出土したが、それ以外は遺物包含層から（弥生土器集中出土地点付近）の出土である。5と9がチャート製、13が頁岩製で、それ以外は黒曜石製である。

凹 石 第14図14の1点が出土しており、砂岩製である。約2/3を欠いているが、平らな片方の面に凹部がある。

小型磨製石斧 第14図15の1点のみが出土しており、石材は硬砂岩であろうか。剥離、敲打により斧形に形が整えられた後、刃部を研磨により作り出している。

③ 土 製 品（第9図8）

弥生土器集中出土地点付近の遺物包含層から1/4程を欠損した土製紡錘車が1点出土している。無文であるが、焼成は良い。



第14図 石器

(2) 平安時代の遺物（第9図）

第13・14号住居址から土器が出土しているが、完形品はなくすべて破片資料である。合計7点を図化提示した。なお器形の分類は中央道長野線発掘調査報告書による。

① 第13号住居址出土土器

須恵器杯Aが2点出土しているが、かなり体部が外傾しており、器壁も薄く仕上げられている。土師器小型甕Cの3は、体部下半にケズリ調整が見られ、体部内面にはカキ目が見られた。土師器甕Bの5は、口縁部のヨコナデ調整が一部肩部まで及んでいる。以上の土器の様相に加え、灰釉陶器が1点も含まれていなかったので、中央道長野線発掘調査報告書の時期区分で7期、9世紀中頃の土器様相を呈していると言えよう。

② 第14号住居址出土土器

須恵器杯Aの底部付近の破片資料2点を図示した。13号出土の杯に比べ体部があまり外傾せず、立ち気味である。中央道長野線発掘調査報告書の時期区分で5期、9世紀初頭と位置付けたい。

第4表 石器観察表

番号	出土地点	器種	材質	法量 (cm:g)				備考
				長さ	幅	厚さ	重量	
1	遺物包含層	石鑓	黒曜石	1.9	(1.1)	0.5	0.7	
2	遺物包含層	石鑓	黒曜石	(1.5)	(1.1)	0.3	0.5	
3	遺物包含層	石鑓	黒曜石	2.1	1.4	0.3	0.7	
4	遺物包含層	石鑓	黒曜石	2.0	1.3	0.4	0.7	
5	遺物包含層	石鑓	チャート	(1.7)	1.5	0.2	0.6	
6	遺物包含層	石鑓	黒曜石	2.6	1.8	0.6	2.0	未製品
7	遺物包含層	石鑓	黒曜石	(2.4)	1.2	0.6	1.7	
8	遺物包含層	石鑓	黒曜石	3.6	1.9	1.0	4.8	未製品
9	遺物包含層	石鑓	チャート	(2.1)	1.6	0.3	1.0	
10	遺物包含層	石鑓	黒曜石	(2.8)	1.3	0.5	1.4	
11	遺物包含層	石鑓	黒曜石	(2.4)	1.6	0.5	1.1	
12	遺物包含層	石鑓	黒曜石	(2.0)	(1.2)	0.4	0.8	
13	14住	石鑓	頁岩	2.6	1.5	0.4	1.5	
14	遺物包含層	凹石	砂岩	(7.1)	5.0		38.2	
15	遺物包含層	小型磨製石斧	硬砂岩?	6.4	3.1	1.2	157.5	

() 付きの数値は残存部で測量のもの。

第5表 土器観察表

番号	出土地点	器種	部位	器形及び文様	内面調整	色調	焼成	備考
弥1	遺物包含層	壺	口縁～頸部	地文に半周LR線文。沈線文脈に刺突文。	ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	稍良好	弥2と同一固体か
弥2	遺物包含層	壺	胴部	地文に半周LR線文。横走・脛走沈線文及び横線文。	イタナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	稍良好	弥1と同一固体か
弥3	遺物包含層	壺	口縁部	口縁部に刻み目。頸部には1条の沈線文。	ヨコナデ	2.5Y5/1 黄灰	稍良好	口縁部1/3残存
弥4	遺物包含層	壺	肩・肩下部	肩部に2条ある沈線文を脈に切入る沈線文。以下ノマテ刺突文。	イタナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	稍良好	肩部1/4残存
弥5	遺物包含層	壺	肩部	肩部に3条ある沈線文が連り筋に刺突文。以下半周LR線文。	イタナデ	10YR6/2 底黄褐	良好	肩部1/4残存
弥6	遺物包含層	壺	胴部	肩上半周LR線文、沈線文・区画文。以下横ヘミガム。	イタナデ	10YR6/2 底黄褐	良好	胴部1/6残存
弥7	遺物包含層	壺	口縁部	口縁部に刻み目。以下横羽状条文。	ヨコナデ	10YR5/1 褐灰	稍良好	口縁部1/8残存
弥8	土器集中地点	壺	口縁～胴部	口縁部に刻み目。以下横羽状条文。	イタナデ	10YR5/2 底黄褐	稍良好	11縁～胴部1/6残存
弥9	P799	壺	胴部	横羽状条文。	ヨコハケ	2.5Y5/2 暗灰黃	良好	胴部1/6残存
弥10	土器集中地点	壺	口縁～底部	口縁部に刻み目。以下横羽状条文。	イタナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	稍良好	口上復元実測
拓1	土器集中地点	壺	胴部下半	横羽状条文。	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	稍良好	
拓2	遺物包含層	壺	胴部	横羽状条文。	ナデ	2.5Y5/1 黄灰	良好	
拓3	遺物包含層	壺	胴部	地文LR線文、同心円沈線文。磨滅不明	2.5Y5/1 黄灰	稍良好		
拓4	遺物包含層	壺	胴部	条文。	ヨコハケ	2.5Y5/1 黄灰	良好	
拓5	遺物包含層	壺	頸部	縱条文。	ナデ	7.5YR4/1 褐灰	良好	
拓6	遺物包含層	壺	口縁～底部	口縁部に刻み目。以下横羽状条文。	磨滅不明	7.5YR6/4 にぶい橙	稍良好	
拓7	遺物包含層	壺	胴部	底下及び横走沈線文。	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	良好	
拓8	遺物包含層	壺	口縁部	底結合沈線文。口唇部内面にLR線文。	磨滅不明	10YR6/4 にぶい黄橙	稍良好	
拓9	遺物包含層	壺	口縁部	口縁部に刻み目。以下横羽状条文。	ヨコナデ	7.5YR4/1 褐灰	良好	
拓10	遺物包含層	壺?	胴部	斜条文・割突文。	磨滅不明	10YR6/2 底黄褐	良好	
拓11	遺物包含層	壺	胴部	地文LR線文に1条の沈線文。	イタナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	稍良好	
拓12	遺物包含層	壺	胴部	横羽状条文。	ナデ	10YR5/1 褐灰	良好	
拓13	遺物包含層	壺	胴部	縦羽状条文。	磨滅不明	7.5YR5/3 にぶい褐	稍良好	
拓14	P662	壺	肩部	同心円状沈線文。	磨滅不明	10YR6/3 にぶい黄橙	良好	
拓15	P734	壺	胴部	地文RL線文に同心円沈線文。	イタナデ	10YR5/2 底黄褐	良好	
拓16	P743	壺	頸部	LR線文。	ナデ	7.5YR6/6 褐	良好	
拓17	14住	壺	胴部	横条状文。	ナデ	7.5YR4/1 褐灰	良好	泥入遺物
拓18	14住	壺	胴部	沈線文+RL線文。	ナデ	10YR5/2 底黄褐	良好	泥入遺物
拓19	14住	壺	口縁部	口唇に刻み目。以下横羽状条文。	ヨコナデ	5YR5/3 にぶい赤褐	良好	泥入遺物
拓20	遺物直上	壺?	胴部下半	底下結合沈線文。	イタナデ	7.5YR4/2 底黄褐	稍良好	
平1	13住P-3	杯	口縁～底部	ロクロナデ。	ロクロナデ	10Y6/1 褐(須恵器)	良好堅密	底部凹転糸切り痕
平2	13住P-3	杯	口縁～胴部	ロクロナデ。	ロクロナデ	7.5Y6/1 褐(須恵器)	良好堅密	1/8残存
平3	13住P-3	壺	口縁～胴部	口縁～胴部上半ロクロナデ。胴部下部カタテヘラグズリ。	カキ四	7.5YR7/6 橙(土師器)	稍良好	口縁部～胴部1/3残存
平4	13住	壺	肩部	タタキ後ナデ。	ロクロナデ	10Y6/1 褐(須恵器)	良好堅密	肩部1/10残存
平5	13住カマド	壺	口縁～胴部	タテ方向へのハケ。	イタナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	稍良好	団上復元実測
平6	14住	杯	胴部～底部	ロクロナデ。	ロクロナデ	7.5YR7/1 白(須恵器)	良好堅密	底部凹転糸切り痕
平7	14住	杯	胴部～底部	ロクロナデ。	ロクロナデ	10Y5/1 褐(須恵器)	良好堅密	底部凹転糸切り痕

IV まとめ

山形村は水源が乏しく稻作を行うには不向きな場所であるため、弥生時代の遺跡は少ない。この度松本市との境であり、山形村の外れではあったが、村では稀有な時期の遺跡を調査することができた。当初試掘調査をした段階では、村で初の弥生時代竪穴式住居址の発見に期待がもたらされたが、残念ながら検出には至らなかった。しかし村の歴史を語る上で特に欠かせない資料が得られたことは確かである。

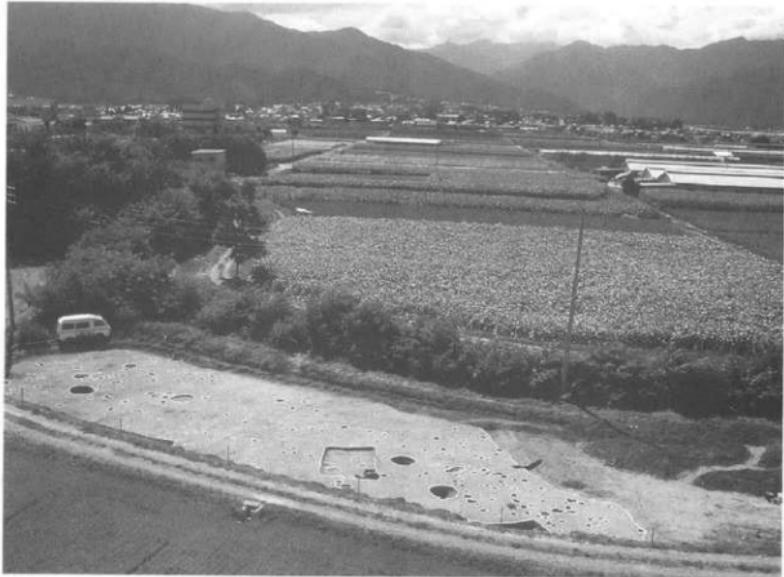
弥生土器は中期前半～中葉に位置付けられるものが出土し、松本市側で行った第1次調査出土土器と時期がほぼ同じである。第1次、第2次調査区の間には、谷が存在したことが分かっているので、谷を挟んで両岸にほぼ同時に遺跡が展開していることが判明した。ただし居住域となっていたか否かについては、住居址が発見されなかつたので確定できない状況である。なお遺跡の西端については、現在の三間沢川流路をまたいで広がるのか否かも今後付きとめていかねばならない。遺物包含層中からではあるが、打製石鐵が13個と割合たくさん見つかった。またこの石鐵を製作する過程で生じたであろう黒曜石の石屑が集中している箇所も見つかった。これは狩猟が行われたことを示す遺物である。米づくりは、居住域周辺の湿潤な窪地を耕し行なったと思われるが、米づくりがこの地に波及したばかりの時期、生産性もあまりよくなかったのか、縄文時代から受け継いだ、慣れたところの狩猟にウェートをおいた生活がなされていたのかと想像される。

平安時代の竪穴式住居址が2軒検出された。この地から北へ1km弱の場所には、大集落であった三間沢川左岸遺跡（松本市）がある。第1次調査や川西開田遺跡発掘調査で指摘されていた、大集落を核にして、衛星状に小集落が取り巻いていた状況を追認することができたと思う。一方山側に広がっている山形村の平安時代に目を向けてみると、縄文時代の集落遺跡発掘調査の際、縄文の竪穴式住居址に混じって、數軒平安の竪穴式住居址が見つかることがある。これらの竪穴式住居址は、灰釉陶器が伴う10世紀以降のものが多い。三間沢川左岸遺跡や川西開田遺跡等、松本市の外れ銀川流域に集落が生まれ、開発が及んでくるのは、古墳時代後期に始まる奈良井川西部、神林地区や島立地区に大きく遅れ、平安時代に入った9世紀以降である。これより外れる山形村への働きかけはもっと遅れるということなのかもと推測される。なお山形村では、大規模な平安時代の集落跡は発見されていない。

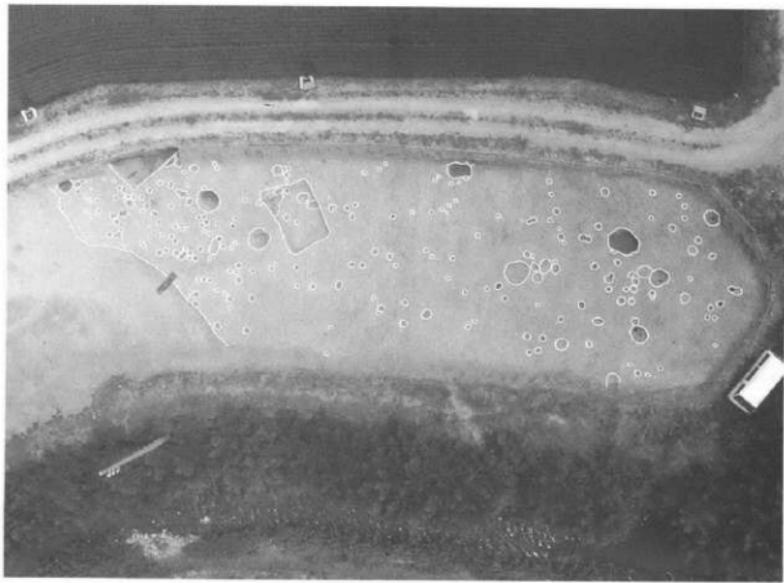
以上雑駁ではあるがまとめてみた。松本平に広がる広大な水田の風景は、周辺の山々を背景に信州を代表する風景の一つになっている。この風景は、長い期間をかけて我々の祖先が多く労力を払い、時には犠牲になり作り上げてきたものであり、たゆまない努力があったからこそ出来上がったものだと言える。そして我々の生活習慣・風俗は、米づくりとともに生まれ形成してきたものである。その米づくりが始まった頃の遺跡調査であった。簡単な栽培はしていたが、おおむね狩猟・採集経済の段階にあったと言われ、約1万年続いた縄文時代から、米づくりの生活に転換するには、様々な糾余曲折があつただろうと思う。そして現代、米づくりは昔に比べ格段に進歩し収量も増えた。しかし食生活の変化、生活様式の変化で米が余り、減反する時代ともなった。当村では耕作地の多くで米が作れない状況である。祖先が努力し作り上げてきた米づくり、生活習慣も、変革の時期を迎えたということなのかもしれない。最後となりましたが調査に御理解と御協力いただいた関係者の皆様、炎天下一生懸命掘っていたいたい作業員の皆様に感謝申し上げ、本書の締めくくりとします。

写 真 図 版

図版 1

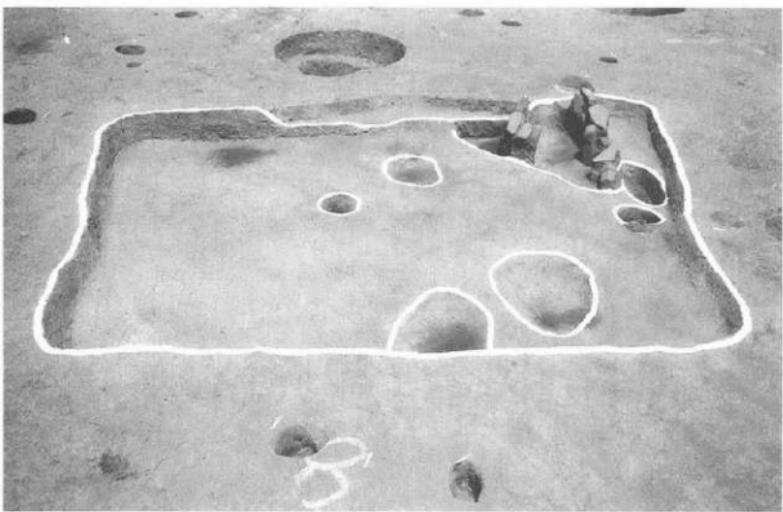


調査地から三間沢川上流唐沢川扇状地を望む



調査地全景（上空から）

図版 2



第13号住居址（南から）



第13号住居址 カマド（南から）



第14号住居址（北から）

+



弥生土器集中出土地点

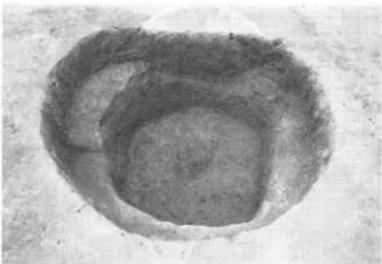


黒曜石剝片集中出土地点

図版 4



土216（東から）



土219（北から）



土222（東から）



土229（北から）



表土除去作業風景



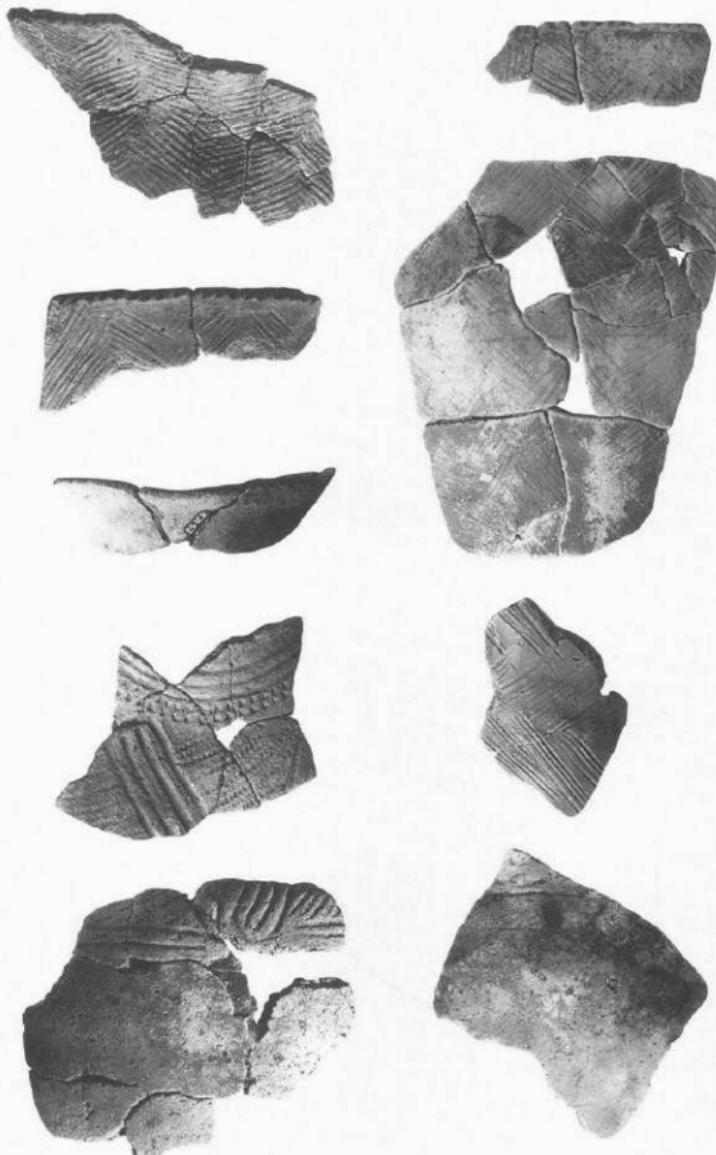
道構掘削作業風景



道構掘削作業風景

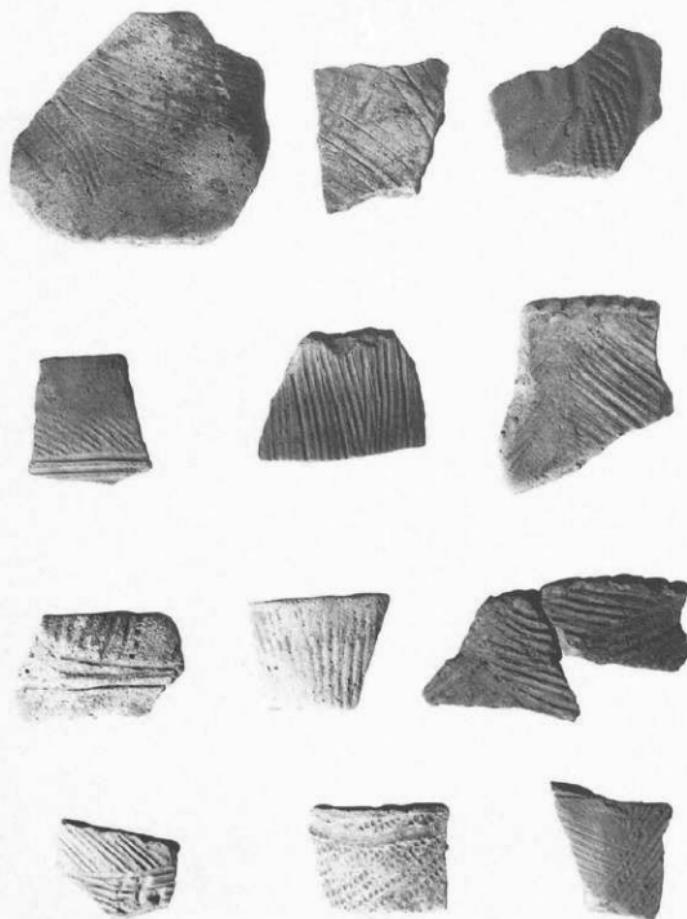


散水作業風景

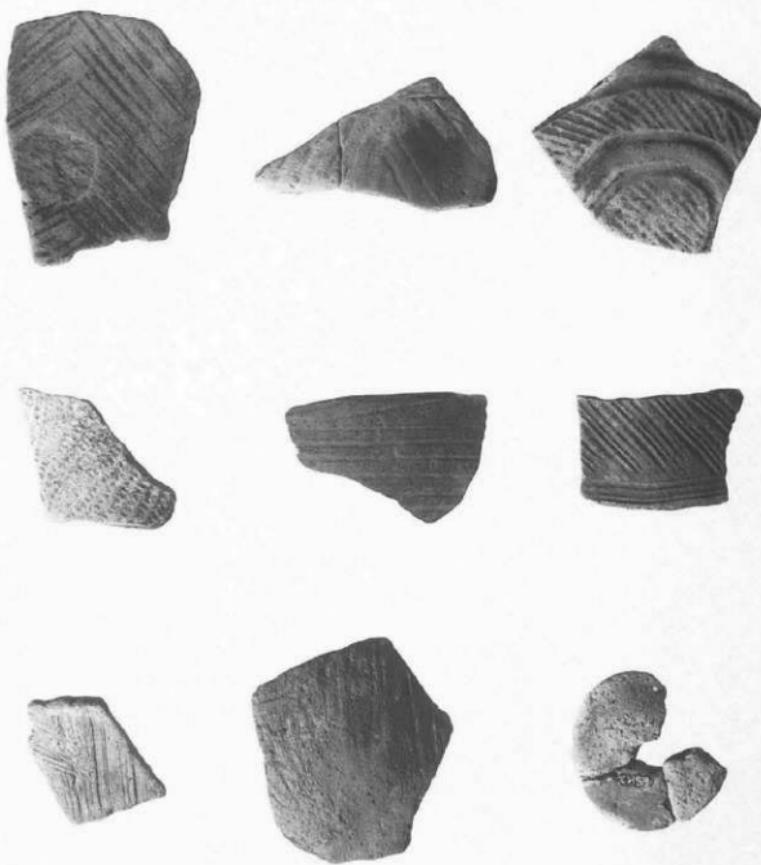


弥生土器(1)

図版 6

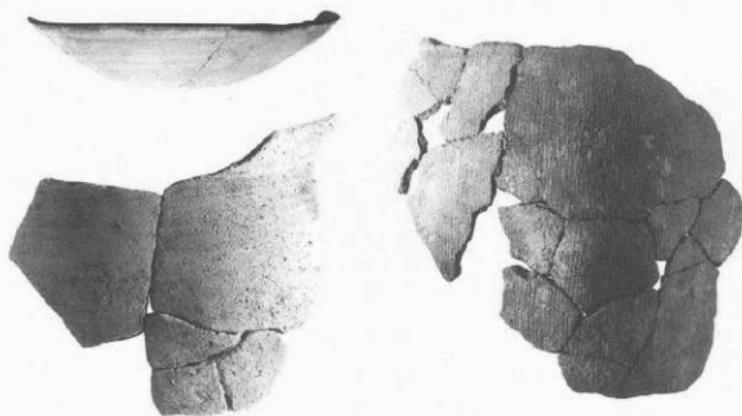


弥生土器(2)



弥生土器(3)

図版 8



平安時代土器



石 器

報告書抄録

ふりがな	さかいくぼいせき 2
書名	境窪遺跡II
副書名	三間沢川河川改修工事に伴う緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	山形村遺跡発掘調査報告書
シリーズ番号	第10集
編著者名	和田和哉
編集機関	山形村教育委員会
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 TEL 0263-98-3155 FAX 0263-98-4256
発行年月日	2001年3月23日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
境窪	長野県 東筑摩郡 山形村 4334-5他	204501	32	36° 10' 28"	137° 54' 04"	1999.07.01 ~ 1999.08.07	550m ²	国補広域基幹河 川改修事業（三 間沢川 松本市 神林）に伴う緊 急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境窪	集落跡	弥生	土器集中出土地点 1 黒曜石剝片 集中出土地点 1 土坑 14 ピット 245	弥生中期前半土器 石鎌 13 凹石 1 小型磨製石斧 1	弥生時代中期前半の遺跡を 調査。松本市側にて実施し た第1次調査区と、谷を挟 み西と東に遺跡が展開する ことが判明。当村にて、弥 生時代の遺跡を調査したの は初めてとなる。
			平安	竪穴式住居址 2	土師器 須恵器

境窪遺跡 II

—三間沢川河川改修工事に伴う緊急発掘調査報告書—

平成13年3月19日 印刷

平成13年3月23日 発行

発行 山形村教育委員会
印刷 藤原印刷株式会社

